

兄弟たちの親切

広島県 昭和北小学校 5年 礪本 祐季

わたしには、兄と弟がいます。兄が熱を出したときのことです。母とわたしで、兄の看病をしていると、兄はしきりに、

「こっち来て、こっち来て。」

と、わたしに言います。そのときの兄の気持ちは、わたしには全くわかりませんでした。兄のそばにずっといたら、病気がうつります。だから、

「病気がうつるからいや。なんでそばにいかんといけんのん。」

と、兄にくまれ口をたたいてしまいました。

弟が熱を出したときのことです。熱が出てしんどいはずなのに、にこにこしているのです。そのときの弟の気持ちは、わたしには全くわかりませんでした。

熱を出したときの兄と弟の気持ちは全くわからないまま、月日を過ごしていました。

そんなある日、わたしが熱を出してしまいました。熱を出してしまったことはつらかったのですが、そのおかげで兄と弟の本当の気持ちはわかりました。熱を出してしまい、わたしが部屋にいと、いつもはケンカばかりしている兄が、

「何度あるん。」

と聞いてくれ、わたしが、

「38度7分。」

と答えると、

「こっちでねんさい。」

と、兄は言ってくれました。

そのときに、兄が熱を出していたときに言っていた「こっち来て」の、本当の意味がわかりました。部屋で一人にいるわたしがさみしくないように、兄はわたしに声をかけてくれたのです。病気のしんどさをやわらげてくれようとしていたのです。兄の「こっち来て」もそんな気持ちがあったのだと思います。

弟のにこにこは、わたしたち家族に心配をかけまいとする気持ちからでした。わたしは、病気だからしんどい表情をしていましたが、弟と会話をしている中で、弟の本当の気持ちに気づきました。『病は気から』ということ、兄と弟から教わりました。

わたしは、兄のやさしさや弟の笑顔に、いつも支えられていました。この支えがあるわたしは、幸せ者だったのです。

今度、兄が熱を出したら、そっとそばにいき、弟が熱を出したら、にこにこ笑顔でいようと思います。